

演題名：新型コロナウイルスと妊娠・出産について

演者：山田秀人

日本産婦人科感染症学会理事長

手稲溪仁会病院 不育症センター長 兼

オンコロジーセンター ゲノム医療センター長

抄録：

妊婦の新型コロナウイルス感染症によって、胎児異常、流産、死産のリスクが高くなる報告は世界的にもありません。母子感染率は2- 4%とされますが、感染児の多くは無症状か軽症で、分娩前の胎内感染は稀とされています。しかし、外国では妊娠は重症化リスクであり、早産リスクが高い可能性が指摘されています。日本でも妊娠後期の感染で急激に悪化した症例が報告されていますので、妊娠中は感染予防を常に心がけ必要があります。妊婦の新型コロナウイルス感染症の重症化のリスクは、高齢、糖尿病、肥満、高血圧、気管支喘息とされています。このような妊婦はより注意が必要です。

ワクチンによる催奇性や胎児に異常が起きた報告は現在までありません。感染リスクが高い医療従事者、保健介護従事者、重症化リスクが高い肥満や基礎疾患がある妊婦は、ぜひワクチン接種を検討してください。新型コロナウイルス感染症流行下の調査によって、妊婦は不安を感じ、産後うつ病のリスクが高いことがわかりました。心配であれば保健センターや主治医と相談をしてください。